



ジブリの森のえいが

スタジオジブリ作品
STUDIO GHIBLI

めいりとかねこバス







ジブリの森のえいが

めいとこねこバス

原作・脚本・監督：宮崎 駿

音楽：久石 譲

制作：スタジオジブリ

スタジオジブリ・マンマユート団 提携作品

上映時間：13分43秒

©2002 二馬力・MG



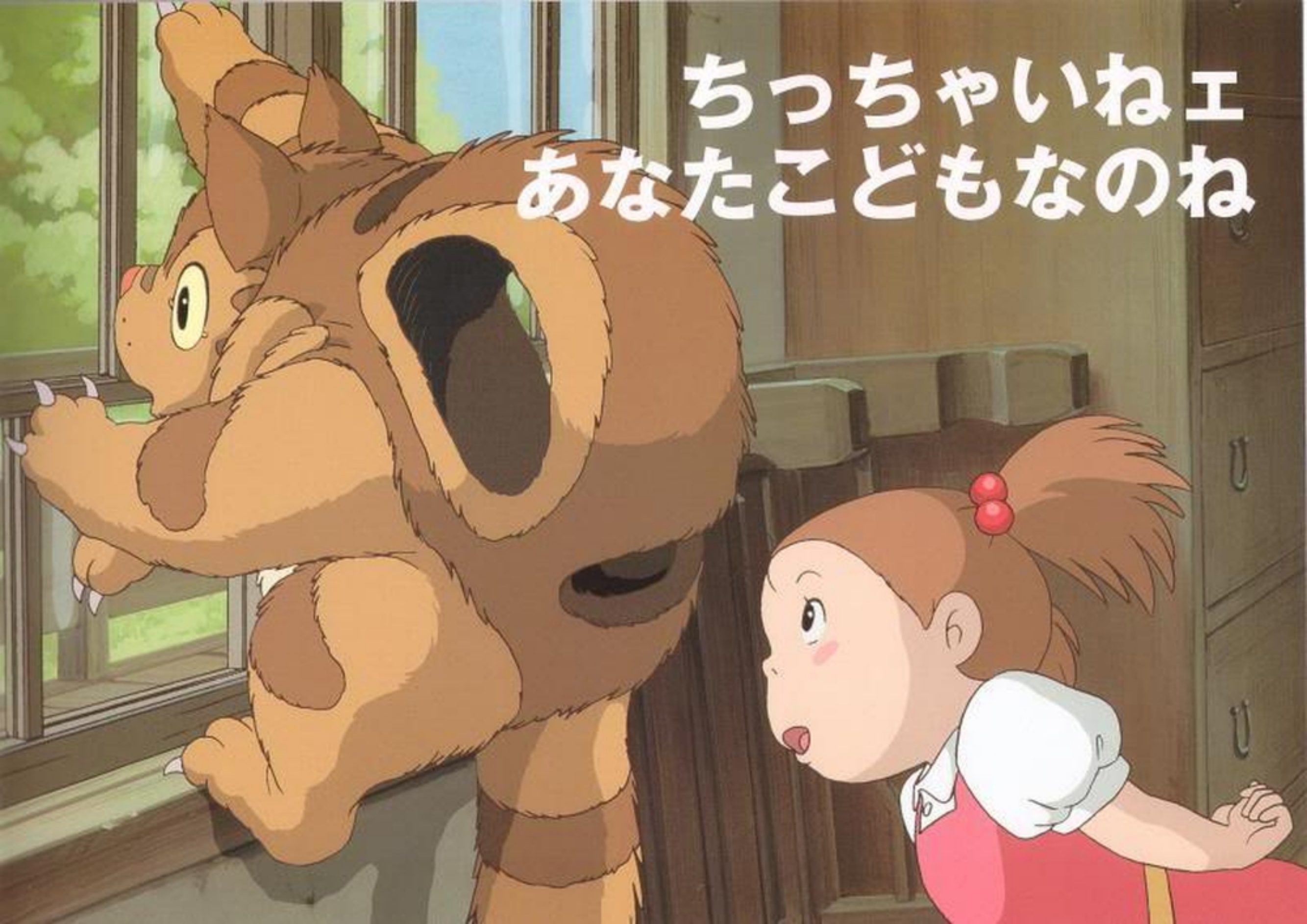
風のつよい日、メイがキャラメルを食べていると、
つむじ風があらわれ、おいかけてきました。





つむじ風の正体はコネコバスでした。
メイはコネコバスにキャラメルをあげて、ともだちになりました。

ちっちやいねエ
あなたこどもなのね



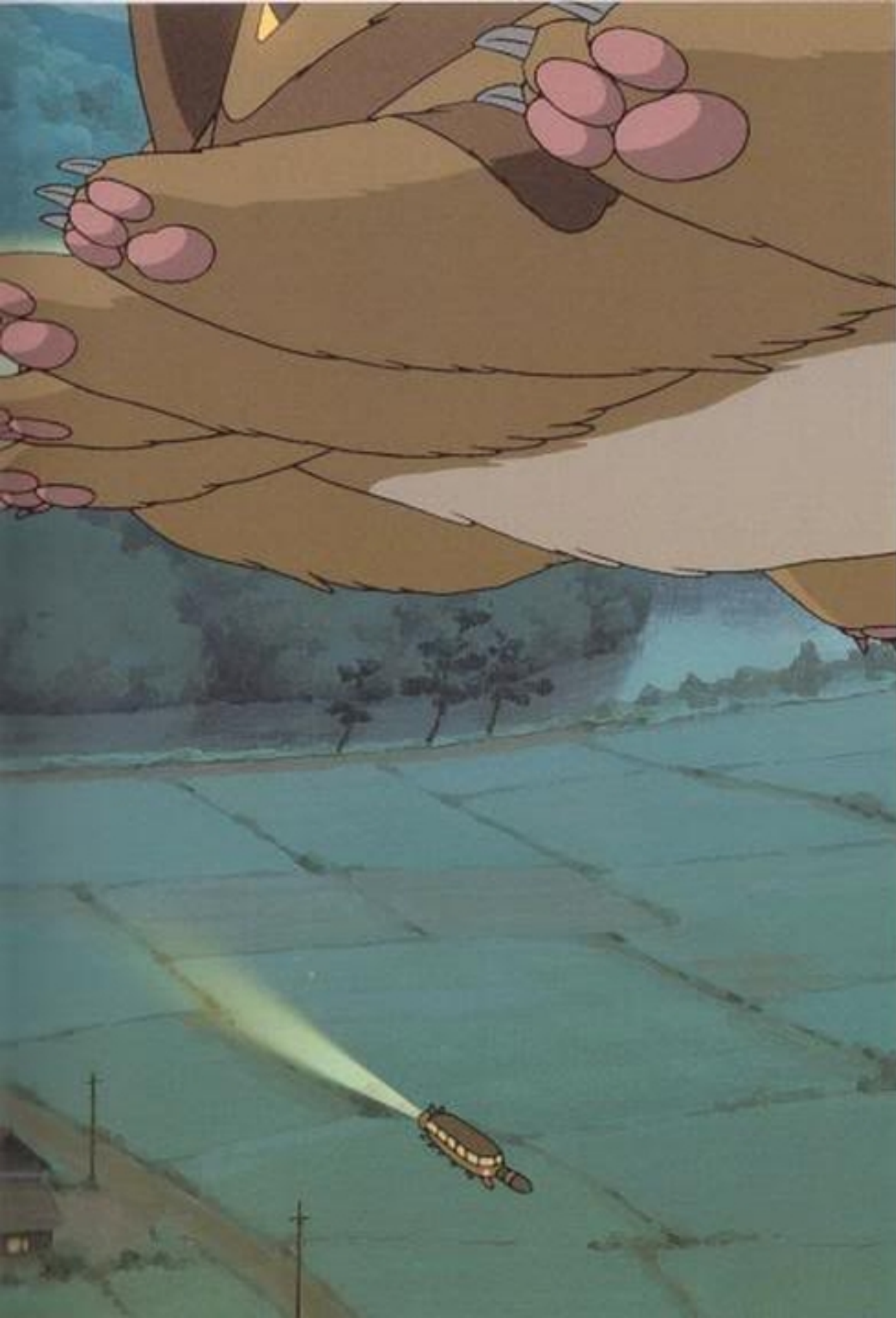


のせてくれるの
ヒャーハハハ



その夜、コネコバスがやってきました。
メイはコネコバスにのってでかけました。





見たこともないたくさんの
ネコバスが森へあつまっていきます。



森の中にはお化けがたくさんいました。
メイがあたりを見まわすと、トトロがいました。

トトロ!!!



こんばんは
コネコバスのおともだちの
メイです

風浄土





メイはネコバアちゃんにキャラメルをあげました。
ネコバアちゃんはお化けたちをのせて空へ、メイはコネコバスにのって家に帰りました。

オープニングから本当に子どもたちは嬉しくなっちゃ
うでしょうね。トカゲやチョウチョウなど、子ども
たちの大好きな仲間がたくさん出てきますから。「いなほ保
育園」にいる子どもたちは、初夏の頃になるとトカゲがどこ
にいっぱい出てくるか知っていて、何百匹も見て、捕まえる
んです。そしてバケツやなべに入れて、いっしょに仲良
く遊んで、帰る時はさよならを言ってちゃんと元にもどし
て帰ったりします。そういう「仲間」がバツと出てくるのだから、
嬉しくなるでしょうね。

次に嵐のようなつむじ風がでてきますね。子どもたちは
嵐や台風が大好きです。台風で大水が来たら、なおさらで
す。大水の中に飛び込んで泳いでいっちゃう。私も台風が
好き。胸がドキドキして、ワクワクしてきます(笑)。

メイちゃんの住む、草があって樹の生えている木造の家。
メイちゃんが戸を「ガラガラ」って開けますよね。その音や
開け閉めをしている姿勢に、同じような日本家屋の国で毎
日をすごしている「いなほ保育園」の子どもたちは自分たち
と同じって感じるでしょうね。そして「出たーっ!!」とばかり
にコネコバスが登場します。あとはもう夢中でスクリーン
の中の出来事を見つめるばかりになるでしょう。私がそう
でしたもの(笑)。

ちょっと怖そうなネコバスちゃんにメイちゃんがキャラメル
をあげるところなどは、自分たちが普段からやっていること
そのままだから、きっと楽しいに違いありません。子ども
は自分が感激した時、その思いを共有した人と分かち合
いたくて、自分が持っている宝ものをあげるものなんです。

ネコバスのムカデのような足の動きに興味が、こんな不思議な乗り物が
当たり前のように現実に登場するんじゃないかと、夢を持つかもしれません。
子どもが夢を見ていなかったらつまらないと思います。夢は全てのはじまりで、
そこからいろんな世界が広がっていくのですから。

例えばジブリ美術館にはネコバスがいますが、子どもたちはそこで遊びながらも、
思い思い自分の世界を頭の中に



子どもの時間

「めいとこねこバス」によせて

北原和子 (いなほ保育園園長)



描いている。自分の世界で作られたネコバスと遊んでいる、つまり、夢を見ているのです。ぬいぐるみの動かないネコバスではなくて、ね。そんなふうに自分の世界はどんどん広がっていきます。

子どもたちが過ごしている時間のなかでは、きっとメイちゃんと同じような大冒険が、毎日起こっているのだと思います。大人にとってはふつうに地面に立っているだけでも、子どもに見える世界はすごく広くて、空のむこうまでつながっているのです。子どもが絵を描くと、天と地があって自分がいて、地面の下にいる虫たちも含めて、自分を取りまく仲間のいる迷路のような絵を描きます。これは、自分を取りまく仲間たちと冒険していることを表しているのではないかと思います。それが楽しいのでしょうね。その楽しい気持ちが、描かれた絵に正直に出るんですよ。この作品を見終ったあとも、子どもたちはいろいろなことを頭の中で思い描き、自分の世界を展開させて楽しむでことでしょう。メイちゃんと一緒に、どこまでもその先の展開を追い求めて不思議な世界へ、自分で広がっていくのだと思います。

もちろん「いなほ」の子どもたちと違って、この映画を見ることで、風が舞い、草木が動き、家のまわりにもいろいろな世界の存在がある、ということにはじめて気づく子どももいるかもしれません。現実の世界でこういったものに触れることが大切だけれど、現在ではそういった環境にいる子どもが少ないのも事実ですから、かわいそうなことです。でもどんな子どもでも、潜在的に冒険や夢やいたすらを感じる心を持っていますから、その気持ちを開花させる環境をつくってあげられるかどうか大切だと思います。子どもの世界は出会うことで膨らんでいきますから、いろいろなものに出会い、感じることでできればいいのだと思います。(談)

きたはら かずこ：埼玉県桶川市にある「いなほ保育園」の園長。「いなほ保育園」は、2001年に公開され好評を博したドキュメンタリー映画「こどもの時間」(監督/野中英理子)の舞台。



PRODUCTION NOTE

「めいとこねこバス」

誕生までの話

子どもたちのために 作られた作品

子どもたちに「ああ、面白かった」と思ってもらいたい。この作品は、宮崎駿監督が館主をつとめるジブリ美術館と同じく、子どもたちのために作られた作品だ。例えばキャラメルをクチャクチャ音を鳴らして食べる感じ。これはまさに子どもならではの食べ方。冒頭でメイがつむじ風に吹かれ、クルクル回るところも、その後の走り方もそう。全ては子どもたちが目を輝かせ、メイの一挙手一投足を自分に重ね、映画を見ている間は全てを忘れ、喜び、笑う。そんな体験をしてもらいたいがためのものなのではないだろうか。



シンプルだけど複雑な、 口ずさめる面白い音楽

音楽を担当したのは「風の谷のナウシカ」以降、全ての宮崎監督作品の音楽を担当する久石譲さん。今回、全8曲中、新たなメロディーは2曲。1曲目はメイがコネコバスと一緒にキャラメルを食べるシーンで流れるもの。「この曲はメイのテーマとして「メーイ、メーイ、タラリラ〜」と単純に呼びかける感じで作ったんです」メロディーこそシンプルなのに、実はとても難しいリズムで構成されている。

「シンプルなメロディーにちょっと複雑さを加えつつ、でも口ずさみやすい面白いものにしようと思っていました」この曲の出来に大満足な久石さん。この曲が完成した時、メイとコネコバスの喜びのテーマとして、これがこの映画音楽の核になると確信したという。

そしてもう1曲、久石さんが作ったのは、森の中にたくさんのネコバスが入っていくところに流れるもの。「あのシーンが物語の大きな変わり目ですからね。ちょっと面白くて印象的なものにしようと考えました」そこで久石さんが取り入れたのが、クルムホルンという傘の柄のような面白い形のオーボエ族の楽器。「エスニック風な感じが出て面白いんですよ」こうして「となりのトトロ」の楽曲に新しい曲が加わり、映像に寄り添う形で流れる音楽は、作品をよりいっそう楽しいものにしている。



音楽録りの作業でオーケストラの指揮をする久石譲さん



坂本千夏、 メイちゃん役に挑戦

1988年に公開された「となりのトトロ」に登場した姉妹の妹・メイが、今回の主人公だ。声を担当するのは、もちろん「となりのトトロ」でメイ役を演じた声優の坂本千夏さん。今回のメイを見て、まず「オッ、今回は泣いてないじゃん」と思ったという。「ちょっと泣きそうになるところはありますが、切り替えが早く、ますますたくましくなったなあと感じました。全体に少しお姉ちゃんになった印象がありましたよね。姉のサツキにくっついてばかりいないで一人でどんどん行動していく。その辺は意識しました。特にコネコバスに対してはお姉さんぶってる感じが出るようにしました」

坂本さんがこの作品で気に入ってるシーンは、メイがコネコバスと巨大なネコバアちゃんにキャラメルをあげるところとか。「とにかくまずキャラメルをあげて仲良くなるっていうのがいいですね。ものおじしないで相手の心の中に飛び込む。それがメイちゃんの魅力じゃないのかなあ」

メイはみんなのものだからイメージを壊さないように気をつけたという坂本さん。14年ぶりのメイ役に不安を覚えながらも、「楽しんで演じることが出来た」と幸せそうだった。



「となりのトトロ」以来、久しぶりにメイ役を演じる坂本千夏さん



トトロと ネコバアちゃん役で 宮崎監督アフレコ挑戦

メイと違い、制作終盤まで、トトロとネコバアちゃんについては、誰が声をあてるか決まっていなかった。いよいよ出演者をどうするかと決める段階で、宮崎監督はトトロ役とネコバアちゃん役を自ら担当することにした。「宮崎監督は、てれながらも淡々とマイクの前で演じてました」とアフレコに立ち会っていた制作担当の渡辺宏行さんは語る。宮崎監督によるトトロの声の収録は順調に進んだそうだが、ネコバアちゃんの声に関しては苦労があったようだ。「宮崎監督の頭の中にははっきりとしたイメージがあったのでしょうか、何度もやり直しをしていました。特にネコバア



トトロとネコバアちゃん役で声の出演をしている宮崎監督



宮崎監督から演技指導を受けるコネコバス役のジブリスタッフ



ちゃんがキャラメルを食べてもがき苦しむシーンにはこだわって、何度も繰り返し録り直していましたね」

ちなみにその他、コネコバスとお化け役に関しては、ジブリのスタッフと、劇団・文学座の方々が担当。みんなそれぞれに楽しみながら収録に挑んだ。

この作品の作画枚数は約15,000枚

この作品を作るのに描かれた作画枚数は約15,000枚。これは13分43秒という短い作品においてはかなりの枚数だ。そこには宮崎監督をはじめ、監督が「動物をかわいく描かせたらこの人の右に出る人はいない」と抜擢した演出アニメーターの二木真希子さん。その他のスタッフの「作品を楽しく、完成度の高いものにしたい」という思いが詰まっている。特にコネコバスが小さなお化けの状態でメイを追いかける冒頭のシーンや、メイをのせたコネコバスが陸稻の上を飛んでいるところ、森の中でたくさんのお化けがうごめいているところなどは、一つ一つの動きをいかに丁寧にリアルに躍動感あふれる感じで描くかということが細かく考えられている。その結果、全てのキャラクターが生き生きと表情豊かに動いて見える。



森のシーンに登場するたくさんのお化けの声を担当したジブリのスタッフたち



コネコバスやネコ列車が登場

この作品には「となりのトトロ」に登場したネコバスをはじめ、新しい種類のネコバスの仲間を見ることができる。それがはっきりわかるのはメイを乗せたコネコバスが森に入っていくシーン。ものすごいスピードで走る列車の形をしたネコ列車がその一つ。もう一つはメイが森で出会うネコバアちゃん。尻尾が3本あるネコ列車の面白さもさることながら、やはり印象的なのは空を飛ぶ豪華客船の

ようになるネコバアちゃん。尻尾はまるで船のスクリューか、プロペラのようにクルクルとまわっている。これにはさすがのメイもびっくりというところだろうか。だが、これらの動きを描くにあたっては、宮崎監督と演出アニメーターの二木さんの間で何度も話し合い、それぞれに特徴のある動きにしようと試行錯誤が繰り返されたという。

そのかいあって、ますますネコバスの世界が広がった気がする。どこかにまだ我々が見たことのないトトロやネコバスの仲間がいるかもしれない。



スタジオジブリ・マンマユート団 提携作品

【声の出演】

メイ 坂本千夏

斎藤志郎 大滝 寛 悠丸伸二 高橋耕次郎
村治 学 古野正弘 横川三郎 鈴木弘秋
石橋徹郎 外村史郎

宮崎 駿とジブリのスタッフ

【スタッフ】

原作・脚本・監督 宮崎 駿
音楽 久石 譲
制作 スタジオジブリ
プロデューサー 鈴木敏夫

演出アニメーター 二木真希子 杉野左枝子 米林宏昌 倉田美鈴
原画 岡川 愛 山田憲一 松浦 栞 田村 篤
小野田和由 鈴木麻紀子 山田味美 田村 篤
藤井善雄 野口美津 鶴岡耕次郎
山川浩二 森田宏幸 武内宣之 大城 勝

動画チェック 龍野仁美
動画 手島晶子 中込和恵 鈴木まり子 矢澤真由
大西 結 大橋 実 伊藤 望 横田匠史
佐藤雅子 海内 勇 笹川剛子 片野美枝子
今野史枝 山田伸一郎 廣田俊輔

土岐弥生 坂野方子 大村まゆみ 北島由美子
横田真代子 西戸スミエ 東 誠子 山浦由加里
椎名律子 岩柳恵美子 森村理枝 林 俊恵
近藤梨恵 西河広美 寺田久美子 藤谷尚子
山田里子 伊藤かおり 石井邦俊 狩野正志
井下篤重 松田哲明 高仲 勲 牧野大介
森田正浩 斎藤佐保 清水昌之 山田幸宣
佐藤可奈子 中野江美 河合拓也 野田亜矢子
松本洋子 式部美代子 浜田高行

動画協力 スタジオたくらんけ アニメトロトロ 動画工房
テレコム・アニメーションフィルム 夢楽館

美術監督 伊奈涼子
背景 田中直哉 春日井直美 石原智康 増山 博
佐々木洋明
デジタル特効 糸川敬子

色彩設計 保田道世
デジタルペイント 守屋加奈子 森 奈緒美 織田富美子 石井裕章
山田和子 野村雪絵 大山康博 岡田理恵
斎藤清子

デジタル作画監督 片岡清則
デジタル作画 蛭部 優 山田裕城 泉津井陽一

映像演出 栗井 敦
デジタル撮影 萩田順二 高橋わたる 田村 淳

編集 瀬山武司

録音演出 林 和弘
録音 井上秀司
効果 伊藤道廣
効果制作 サウンドリゾナ
効果助手 森 隆一
録音スタジオ 東京テレビセンター
今泉 武 岩名路達

音響制作 KIKI

レコーディングエンジニア 浜田純伸
アシスタントエンジニア 秋田裕之
金子裕一

音楽制作マネージメント 佐藤 元
ワンダーシティ
岡本 裕子

指揮 久石 譲
演奏 新日本フィルハーモニー交響楽団
音楽収録 アバコクリエイティブスタジオ
ワンダーステーション
音楽制作 スタジオジブリ
稲城和実

制作担当 高橋 望 渡辺宏行
制作デスク 神村 晃 望月雄一郎
制作進行 斎藤純也 清川良介
ポストプロ担当 吉城 環 津崎紀子
演出助手 宮地昌幸

映像/製作協力 IMAGICA
タイミング 平林弘明
フィルム・レコーディング 豊谷慎吾 柴田祐男 本間政弘
カラー・マネージメント・システム 遠藤浩平
GALETTE 山井哲也
フロント業務 志村由希子
ラボ・マネージメント 川又武久





TMCFA - 005 [400]



4 571101 908312